

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

生産性の問題は最低賃金の引き上げで解決する

デービッド・アトキンソン (元ゴードマン・サックス証券金融調査室長)

1. トヨタ自動車の「カイゼン」活動が長らくもてはやされてきたように、日本企業は職場の「改善」は得意ですが、経営の「改革」は苦手です。日本の現状を調査・分析すれば、人口減少や少子高齢化が最大の問題だと分かります。しかし、人口増から人口減へとパラダイムシフトが起きているのに、何も変わっていないかのごとく、改革ではなく改善ばかり続けています。最低賃金引き上げは、こうした状況を大きく変える改革になります。
2. 過去20年間で米国や英国の給料は約1.7倍になりましたが、日本では約7%減少しました。人口が減れば、数の原理で日本のGDP(国内総生産)も縮小します。そうならないためには、給料を増やすしかありません。これまで日本の経営者は本気で生産性を向上させずに、賃金を削って利益を出してきた。もうこんなことはやめないと立ち行かなくなります。
3. 経営者の多くは、賃金を上げられない理由を「デフレが長く続いてきたから」と説明するのですが、デフレが原因で賃金を上げられないのか、賃金を上げないからデフレが続いているのか、その検証すらまともにできていません。自分たちの経営能力のなさをデフレのせいにしてしています。「働き方改革」という号令の下で労働者に生産性改善の責任を押し付け、賃金は抑制したまま。そのような考え方が日本経済をダメにしているのです。
(参考:「日経ビジネス」2019年9月2日号)

経営者のための営業学

イノベーションの条件

1. イノベーションはきわめて広義な概念であり、一般的には、新しい価値を生み出し、社会的に大きな革新をもたらすことをさす。技術はそのための手続きのひとつであり、イノベーションは必ずしも「技術革新」に限らない。米国在住の濱口秀司氏は、イノベーションの条件として、①見たことも聞いたこともないこと、②実現が可能なこと、③物議を醸すこと、の三つを挙げている。
2. 「見たことも聞いたこともないこと」というと、何かとてつもないアイデアのように感じられるが、例えば濱口氏が開発した「USBメモリ」のように、アイデアを実現したら、実は消費者が欲しかったものだった、というコロンブスの卵的なアイデアもイノベーションである。また、良いアイデアは世の中を吹き飛ばすようなものではなく、何でこれがなかったのだろうというものだ。
(参考:「週刊ダイヤモンド」:2019年9月28日号)

経営者のための理念・哲学

「こころ」はどこに行ったのか

福地茂雄 (アサヒビール社友)

1. サッカーや野球の国際試合では、顔に日の丸を描き、必勝と書かれた鉢巻を締めた若者たちが「ニッポン、ニッポン」と連呼する姿をよく見かけます。しかし彼らには、自分の国を自分で守ろうとする愛国心はあるのでしょうか。企業においても、企業統治の不良や検査不正は後を絶ちません。自分が求めて入った企業を愛する「こころ」が希薄になっていること、その原因があるように思います。
2. 教育においても同様です。キャンパスという「かたち」だけは立派になりましたが、教育内容という「こころ」が近隣諸国や諸外国と比較して著しく劣っていることは、統計資料の示す通りです。家庭も例外ではありません。家屋は総じて立派になったものの、肝心の家庭がなくなった現状では、三世同居という言葉もむなしく響くばかりです。親は子を大切にし、子は親を敬う。家庭の「こころ」はどこに行ってしまったのでしょうか。
(参考:「致知」:2019年11月号)

古典に学ぶ

生産利殖は正しき道に依る

(解説) いやしくも生産利殖は正しき道に依って経営すべきものであるとの観念が、我々お互いに実業家間の信条となっておるならば、外国の人とはとにかく、日本の実業家中にそのような不正を働く者のないことを誇り得るだろう。
(参考: 洪沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)